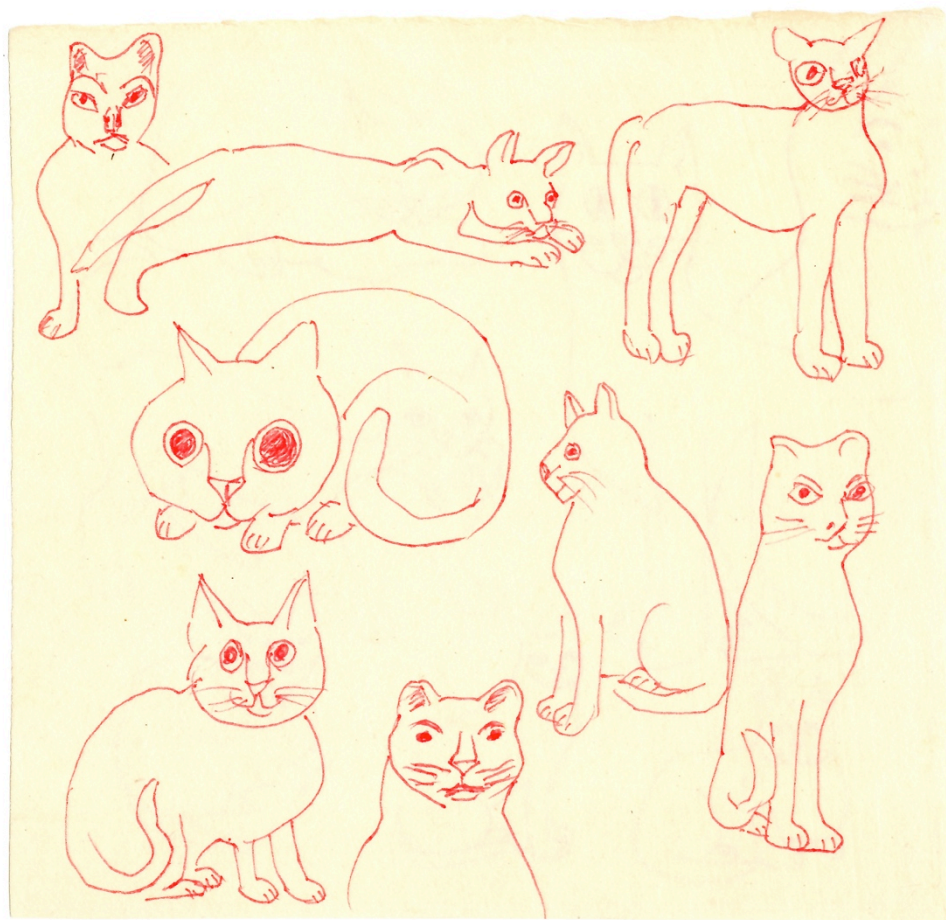


2015年4月

プレスリリース

企画展「猪熊弦一郎展 猫達」

2015年6月13日(土) - 9月27日(日) 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館



猪熊弦一郎 《題名不明》 1987年頃

◎公益財団法人ミモカ美術振興財団

[お問い合わせ先]

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

公益財団法人ミモカ美術振興財団

展覧会担当 古野華奈子

〒763-0022 香川県丸亀市浜町 80-1

Tel. 0877-24-7755 Fax. 0877-24-7766

E-mail. press@mimoca.org

猪熊弦一郎展 猫達

Genichiro Inokuma: Cats

[概要]

展覧会名：猪熊弦一郎展 猫達

会期：2015年6月13日(土)–9月27日(日) 会期中無休 [107日間]

時間：10:00–18:00 (入館は17:30まで)

*6月13日(土)は20:00まで開館 (入館は19:30まで)

会場：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 展示室 A

主催：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団

協力：ilove.cat

観覧料：一般 950 円 (760 円)、大学生 650 円 (520 円)、高校生以下または 18 歳未満・丸亀市在住の 65 歳以上・各種障害者手帳をお持ちの方は無料

・同時開催企画展「マルティエノ・ガンパー 100 日で 100 脚の椅子」及び同時開催常設展「猪熊弦一郎展 渡米と抽象表現」の観覧料を含む

・() 内は前売り及び 20 名以上の団体料金

・8月22日(土)、23日(日)は、1階ゲートプラザにて「まるがめ婆娑羅まつり」開催のため観覧無料となります。(日程は変更になる可能性があります。また、当日は展示室内に音が響く場合があります。)

・9月24日(木)–27日(日)までは本展「猪熊弦一郎展 猫達」および常設展のみの開催となります。

一般 550 円、大学生 380 円、団体一般 440 円、団体大学生 300 円 (当該期間の前売り販売はありません)

[開催主旨]

猪熊弦一郎(1902-93)が好んで描いたモチーフのひとつに猫があります。夫婦ともに猫好きだった猪熊家では、一度に一ダースの猫を飼っていたこともあるようで、たくさんの猫に囲まれた暮らしのなかで、猪熊は、画家の目で猫をとらえるようになりました。彼が描いた猫の姿は、写実的なスケッチ、シンプルな線描、デフォルメした油彩画と実にさまざまで、画家が猫の魅力に存分に享受し、創作に挑戦した様子がうかがえます。本展では、猪熊が描いた猫の絵を、作風や技法、他のモチーフとの組合せなど複数の視点からご紹介いたします。モチーフとしての猫に対する客観的な視点と、友としての猫に対する敬愛の念が呼応した、猪熊ならではのユニークな「猫達」をご堪能ください。

[トピックス、見どころ]

- ◎ 猫は、猪熊が好んで描いたモチーフの一つとして知られ、人気もありますが、当美術館において、猫に焦点をしばってご紹介する猪熊弦一郎展は今回が初めてです。
- ◎ 当館所蔵品のうち、猪熊が猫を描いた作品はおよそ 700 点あることが、今回の調査でわかりました。本展ではそのなかから厳選したユニークな猫達をご紹介します。
- ◎ 猫を描いた作品は、ほとんどが小さな紙に描いた小品で、これまで展示する機会があまりありませんでした。今回は、未発表のものを含めたこれらの小品をたっぷりご覧いただけます。
- ◎ 戦時中に描いた子細で写実的なスケッチ、戦後すぐ、猫の姿形や色を自由に変えて新しい表現に挑戦した油彩画、晩年にメモ用紙に次々描いたシンプルながらも多様な表情を見せる線描等々、時代によって画風を変化させた猪熊らしく、さまざまな描き方の猫達が登場します。
- ◎ 写実的な描き方ではなくとも、画家の目は猫の生態を驚くほどの確に捉えています。今展では「絵としておもしろい」作品はもちろんのこと、「猫としておもしろい」作品を多数選出、特に猫を飼っている方に共感いただけること間違いありません。
- ◎ タイトルの「猫達」は、猪熊が基本的には多頭飼い（数匹を一緒に飼うこと）であったこと、それが描いた絵に特徴としてあらわれていることから付けたものです。猪熊は、多いときには一度に一ダース飼っていたそうです。
- ◎ 本展の開催時期にあわせ、関連書籍として、『猪熊弦一郎猫画集 ねこたち』がリトルモアより出版されます。本書は、猫×クリエイターをテーマにしたウェブマガジン ilove.cat（アイラブドットキャット）が企画、編集したものです。詩人の谷川俊太郎による新作詩と、猪熊の弟子である画家、荒井茂雄へのインタビューも掲載。

[関連書籍のご案内]

『猪熊弦一郎猫画集 ねこたち』

企画：ilove.cat

アートディレクション・ブックデザイン：古谷萌

撮影：丸尾和穂

編集：服部円（ilove.cat）、加藤基（リトルモア）

監修：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団

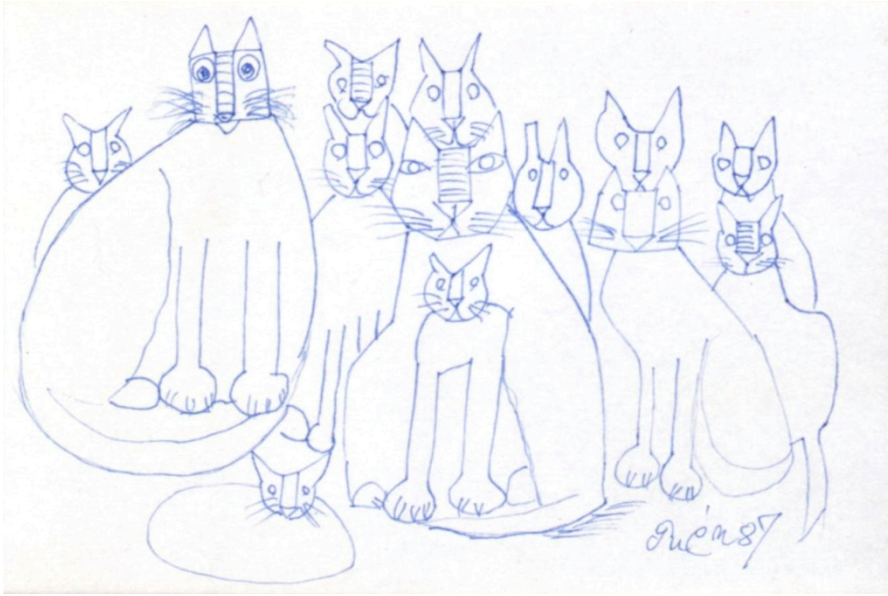
出版：リトルモア

予価：2,000円

発行：2015年6月13日 初版第1刷

<http://www.littlemore.co.jp>

[参考図版]



《題名不明》1987年 ©公益財団法人ミモカ美術振興財団



《題名不明》1951年 ©公益財団法人ミモカ美術振興財団



《猫と食卓》1952年 ©公益財団法人ミモカ美術振興財団

* 広報用画像は当館ウェブサイトよりご請求ください。<https://www.mimoca.org/ja/press/>

[関連プログラム]

◎キュレーターズ・トーク

本展担当キュレーター（古野華奈子）が展示室にて展覧会の見どころをお話します。

日時：会期中の第2、第4日曜日 14:00-（他の関連プログラム開催時を除く）

参加料：無料（ただし展覧会チケットが必要です）

申込み：不要（1階受付前にお集まりください）

※この他にも関連プログラムを予定しております。詳細決定次第、当館ウェブサイトにてお知らせします。<http://mimoca.org>

[同時開催展]

◎企画展

マルティエノ・ガンパー：100日で100脚の椅子

2015年6月13日(土) - 9月23日(水/祝) 会期中無休

展示室C

◎常設展

猪熊弦一郎展 渡米と抽象表現

2015年6月13日(土) - 9月27日(日) 会期中無休

展示室B

[次回開催企画展]

猪熊弦一郎展 ちかづく、つたわる、すきになる（仮称）

2015年10月3日(土) - 12月6日(日) 会期中無休

[作家プロフィール]

猪熊弦一郎／Genichiro Inokuma

- 1902 香川県高松市生まれ。少年時代を香川県で過ごす。
- 1916 旧制丸亀中学校（現 香川県立丸亀高等学校）に入学。在学中に描いた猫の絵が図画室に掛けられる。
- 1921 旧制丸亀中学校（現 香川県立丸亀高等学校）を卒業。
- 1922 東京美術学校（現 東京藝術大学）西洋画科に進学。藤島武二教室で学ぶ。
- 1926 帝国美術院第7回美術展覧会に初入選。以後、第10回、第14回で特選となるなど、1934年まで主に帝展を舞台に活躍する。
- 1933 **このころ、初めて油彩画で猫を描く。**
- 1936 志を同じくする伊勢正義、内田巖、小磯良平、佐藤敬、三田康、中西利雄、脇田和、鈴木誠と新制作派協会（現 新制作協会）を結成。以後、発表の舞台とする。
- 1938 フランスに遊学（1940年まで）。アンリ・マティスに学ぶ。
- 1944 **神奈川県津久井郡吉野町（現相模原市）に、猫を二匹連れて疎開する。**
- 1950 三越の包装紙「華ひらく」をデザインする。
慶應義塾大学壁画《デモクラシー》及び名古屋丸栄ホテル壁画《愛の誕生》に対し第二回毎日美術賞を贈られる。
- 1951 国鉄上野駅中央ホールの大壁画《自由》を制作。この頃より渡米前まで、様々な表現で猫をテーマに多くの作品を描き、個展やグループ展に出品する。新聞で「ネコの猪熊」と評されることも。
- 1955 **猫好きな文化人たちによる猫についての随筆・小説集『猫』（中央公論社発行）に、飼い猫についてのエッセイ「みつちやん」が掲載される。**再度パリでの勉強を目指し日本を発つが、途中滞在したニューヨークに惹かれそのまま留まることとし、約20年間同地で制作する。渡米をきっかけに抽象画を描くようになる。
- 1973 日本に一時帰国中、病に倒れる。
- 1975 ニューヨークのアトリエを引き払う。その後、冬の間をハワイで、その他の季節は東京で制作するようになる。
- 1986-87 **抽象画を描くかたわらで、小さな紙やメモ用紙に猫を多く描く。**
- 1989 丸亀市へ作品1000点を寄贈。
- 1991 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館のゲートプラザ壁画《創造の広場》、および丸亀市立図書館のシルクスクリーン壁画を制作。
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館が開館する。
- 1992 所有するすべての作品などを丸亀市に寄贈する趣旨の文書提出。
以降、順次丸亀市猪熊弦一郎現代美術館に搬入。
- 1993 東京にて逝去。90歳。